



公共交通の先進的な取組を
支援等しています

http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/minpro_ex/

〔お問合せ先〕

中部運輸局貨客混載輸送プロジェクトチーム

担当：金子、松野、鈴木

TEL 052-952-8007

長良川鉄道で「貨客混載輸送」実証実験を開始

～ 11月6日から、ヤマト運輸の宅配貨物を代替輸送 ～

鉄道モーダルシフトの推進を目的に設置された「ながら MS 推進協議会」（長良川鉄道株式会社、ヤマト運輸株式会社岐阜主管支店）は、過疎化・高齢化が進む中山間地域における宅配輸送の効率化を目指し、国土交通省の補助事業「モーダルシフト等推進事業」を活用して、長良川鉄道を利用した貨客混載輸送の実証実験を実施します。

実証実験の概要

運行期間：平成 29 年 1 月 6 日（月）～ 1 月 17 日（金）の平日 10 日間

運行区間：長良川鉄道越美南線 関駅（関市）→美並苅安駅（郡上市）（約 23 km）

対象貨物：郡上市美並地域に配達する宅配貨物（台車 1 台あたり約 20 個を想定）

※現地取材の事前登録に関しては次頁、実証実験の詳細は 3 頁目をご覧ください。

本実証実験では、ヤマト運輸株式会社の宅急便の幹線輸送部分を長良川鉄道の旅客列車が代替輸送することにより、宅配ドライバーの生産性向上を検証することを目的としています。実験の具体的な効果として、宅配ドライバーの走行距離・時間の削減、創出される地域滞在時間の有効活用が見込まれるとともに、長良川鉄道が一定量以上の貨物を恒常的に輸送すること等により、長良川鉄道の経営基盤の強化が図られることも期待されます。

中部運輸局といたしましては、本実証実験プランの早期実用化をバックアップするばかりでなく、貨客混載による輸送量・輸送区間の段階的な拡大や、鉄道上下線を利用した貨客混載輸送等、より生産性の高いサービスを目指し支援して参ります。

背景

国土交通省では、物流分野における労働力不足への対応や環境負荷の低減を推進するため、昨年 10 月に施行された改正物流総合効率化法に基づき、トラック輸送から鉄道輸送、海上輸送への転換（モーダルシフト）や幹線輸送網の集約化、共同輸配送等の推進を図っています。このうち、鉄道モーダルシフトの主要な取り組みの一例として、旅客鉄道の輸送力を活用した貨物輸送の促進により、①CO2排出量の削減、②トラックドライバー不足への対応、③定時性・スピード性に優れた貨物輸送の実現を目指しています。

一方、地方鉄道においては、沿線地域の通学や通院、買い物のみならず、観光交通としての重要性が高まる中、急激な人口減少等に伴う利用者の大幅な減少等により路線維持が困難となりつつありますが、長良川鉄道も例外ではなく、沿線地域において維持・活性化に向けた取り組みが進められています。

【実証実験の現地取材に関して】

○事前登録のお願い

＜期 限＞ 平成29年11月4日（土） 13時まで
＜申込先＞ ながらMS推進協議会 事務局 佐々木、小島
（長良川鉄道株式会社 運輸部）
FAX （0575）46-8540

○当日の集合場所、集合時間

＜集合場所＞ 長良川鉄道 関駅 西側
岐阜県関市元重町74番地の1
※駐車場は関シティターミナル駐車場をご利用下さい。2時間まで無料です。
＜集合時間＞ 平成29年11月6日（月） 12時15分
※トラックから列車への積み込みは12時45分頃ですが、乗降客へのご配慮いただくことなど、留意事項のご説明をいたします。

○その他留意事項

- ・取材中は、各社局の腕章を着用願います。
- ・取材に当たって、列車遅延を発生させないようご協力願います。
- ・列車乗車中も撮影可能ですが、車中におけるぶら下がり取材は行いません。
- ・関から美並刈安まで列車に乗車して取材する場合、関までの折り返し列車は美並刈安駅 15時9分発（関着 15時53分）となります。美並刈安駅前にも駐車スペースをご用意いたしますので、自動車を回送させることも可能です。

※お申し込みの際には、切り離さずFAXしてください。

【FAX 0575-46-8540】

御社局名

お名前（代表）

人 数

人

カメラ

映像

台

写真

台

連絡事項

長良川鉄道における貨客混載実証実験【H29.11.6~11.17】

実験概要

- ▶ 通常、ヤマト運輸(株)が、トラックで郡上市美並地区に配送する場合、岐阜ベース店(関市)→郡上八幡センター→美並地区という順序で配送される。
- ▶ AMの配送を終えた運転手は、PMの配送をするために郡上八幡センターに戻っているが、これを一部変更し、長良川鉄道で関駅～美並苅安駅間を運送することによって、郡上八幡センターに戻らずともPMの配送が可能になる。



検証する事項

▶生産性向上の検証

- ・宅配ドライバーの走行距離・時間の削減による地域滞在時間の延長の可否
- ・創出される地域滞在時間の有効活用による集配地域の見直し等の可否

▶持続性の検証

- ・旅客・貨物双方の安全性の確保や旅客サービス維持のためのオペレーションの是非

その他特記事項

- ※鉄道による貨客混載は中部初の事例。
- ※実証実験中は、駅や列車内における旅客等の安全確保のため、ヤマト運輸(株)のスタッフが列車に同乗。本格実施では、スタッフが同乗せずに、旅客と貨物を同一の車両で運送することを目指している。
- ※生産性のさらなる向上に向けて、輸送量や輸送区間を段階的に上げていくことが必要。

トライアルの様子

